

春から夏にかけてかかりやすくなる感染症にはしか、風しんがあります。これらは小児に好発する感染症ですが、近年成人の間でも流行しています。成人が罹患すると症状が重く出ることがあります。はしか、風しんについて知り、予防することの重要性を理解しましょう。

●はしかはどんな病気？

【症状】

感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2~3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、脳炎を発症することもあります。先進国であっても 1000 人に 1 人の死亡割合です。感染経路は、空気感染、飛沫（唾液のしぶき）感染、接触感染となっています。

【特徴的な症状】



＜融合性発疹＞
耳後、頸部から始まり、顔面、手足に赤紫色の盛り上がった発疹を認めます。



＜コプリック斑＞
両側の奥歯近くにある頬粘膜にできます。紅色を伴う白い斑点がみられます。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続するウイルス疾患です。近年はワクチンの 2 回接種が行われ、はしか感染者は減っています。はしかは感染力が強いため、はしかワクチンが有効な予防法といえるでしょう。

●近年のはしか流行について

はしかは毎年春から初夏にかけて流行が見られます。平成 19・20 年に 10~20 代を中心に大きな流行がみられましたが、平成 21 年以降 10~20 代の患者数は激減しました。患者発生の中心は 0~1 歳となった一方で、20 歳以上の成人例の割合は増加しています。

●外国ではしかになると大変なのですか？

特にはしかの発症がない、あるいは非常に少ない国・地域では、滞在中にはしかを発症すると、感染の拡大防止のため、発症した本人の移動制限だけでなく、同行者の移動も厳しく制限されることがあります。

●妊娠しているのですがはしかの流行が心配です。どうしたらよいのでしょうか？

妊娠中にはしかに罹ると流産や早産を起こす可能性があります。妊娠前であれば未接種・未罹患の場合、ワクチン接種を受けることを検討すべきですが、既に妊娠しているのであればワクチン接種を受けることが出来ませんので、はしか流行時には外出を避け、人込みに近づかないようにするなどの注意が必要です。

●風しんはどんな病気？

【症状】

急性の発疹性感染症で、潜伏期間は 2~3 週間、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。風しんの症状は小児では比較的軽いのですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症を発症することがあります。大人がかかると、発熱や発疹の期間が長く、関

節痛がひどいことが多いとされています。患者さんの飛沫（唾液のしぶき）などが感染経路となります。

【特徴的な症状】



＜風しんによる発疹＞
顔面から始まり、体幹、四肢へと広がる発疹であり、はしかのものよりやや小さいです。時に出血や搔痒を伴います。



＜リンパ節浮腫＞
リンパ節は発疹の出現する数日前より腫れはじめ、3~6 週間位持続します。

一度かかると、大部分の人は生涯風しんにかかることはありません。ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫ができてしまう（不顕性感染）人が 15~30%程度いるといわれています。従来、1~9 歳ころに多く発生していましたが、近年は多くが成人男性となっています。

●近年の風しん流行について

流行は春先から初夏にかけて多くみられます。かつてはほぼ 5 年ごとの周期で大きな流行が発生していましたが、1994 年（平成 6 年）以降大流行はみられていません。しかし、局地的流行や小流行はみられており、予防接種を受けていない場合、発症の可能性は少なくありません。

●先天性風しん症候群とはどんな病気ですか？

妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、精神や身体の発達の遅れ等の障害をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。この障害のうち一つか二つのみを持つ場合もあり、気づかれるまでに時間がかかることもあります。

先天性風しん症候群がおこる可能性は、妊娠初めの 12 週までが高いといわれています。予防接種が有効な予防法ですが、妊娠中は風しんの予防接種をうけることはできません。

●ワクチンについて

はしか、風しんは特異的な治療法がないため、ワクチンによる予防が最も重要です。これらのワクチンは生ワクチンという種類のものであり、長期にわたる免疫を獲得できる利点があります。その一方、感染症発生などの副反応を起こす可能性が高いという欠点もあります。

対象疾患	はしか・風しん	はしか	風しん
ワクチン名	麻しん・風しん混合ワクチン (MR 混合ワクチン)	麻しんワクチン	風しんワクチン
接種時期	第 1 期：1 歳代で 1 回接種します。 地域で流行しているときは、自費で生後 6 か月からでも受けられます。 第 2 期：小学校入学の前年（幼稚園や保育園の年長クラス）1 年間に 1 回接種します。		

成人がワクチン接種する場合は、体調や接種時期について主治医とよく相談しましょう。

＜参考＞

厚生労働省HP

国立感染症研究所HP

病気が見える vol.6

e-mediceo (https://www.e-mediceo.com/diweb/common/upload/list/1339400618/eff0850_201512.pdf)

know VPD! (<http://www.know-vpd.jp>)

